

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170504054		
法人名	社会福祉法人ノテ福祉会		
事業所名	グループホーム「ごきげん」清田		
所在地	札幌市清田区清田1条4丁目3番16号		
自己評価作成日	令和2年 3月 5日	評価結果市町村受理日	令和2年5月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170504054-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和2年4月20日 (令和元年度分)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

誰もがごく普通の暮らしを…という理念のもと、利用者様一人一人の生活リズムに最大限配慮された生活の取り組みに力を注いでおります。
特に、当事業所には畑があり、春～秋にかけて様々な野菜を利用者様・職員一丸となって栽培・収穫する楽しみがあります。また、ご近所の喫茶店に定期的に通われたり、区内のお祭りや小学校の運動会にお邪魔する等の地域参加も積極的です。
法人全体が地域との深い関係性を築いており、事業所の活動に対し、暖かく見守って頂いている所も強みであります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

厚別川の辺、目の前にバス停や行き付けの喫茶店が有り、最寄りには交番、小学校、区役所、大型スーパー、銀行等も点在する商業区域に建っている事業所で、利用者が地域に密着して生活し易い環境にある。高齢者の自立を目標として、様々な老人福祉施設を展開しているノテ福祉会が豊富な経験を活かし開設したグループホームの一つで、15年目を迎える2ユニットの事業所である。一節にある「個性を大切に あなたらしさを受け止めます」の理念に沿って、家庭的な雰囲気の中で、利用者のペースに合わせて達成感や生活感を感じて頂ける様に、事業所は特に畑作業に力を入れており、春から秋にかけての苗植えから収穫までの喜びと充実感を一緒に味わって頂き乍ら、体力作りに努めるなど、生活そのものがリハビリになる自立支援に取り組んでいる。外出の機会も多く企画し、川辺の散歩や喫茶店通い、お祭りや清掃活動などの町内会行事への参加、ドライブでの花見、鯉のぼり見学、紅葉狩り、雪まつりやイルミネーション見物など、四季に触れ、社会との繋がりを絶やさない生活を育める様に支援している。家族とは、毎年実施される満足度アンケート調査を活かし、思いや意向を汲み取り、ケアサービスに反映させ、終末期に向けても利用者、家族の要望に応じた看取り介護が行われるなど、最期まで馴染みのグループホームで過ごしてもらう為に、往診医師と訪問看護師、職員が協働し取り組み、安らぎの場として、心の安定に繋げている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々 が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元との関係者 とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者 や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情 や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過 こせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援 により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内でのケアに留まらず、地域に根差しながらも、自分らしく過ごせる様な対応に関して、職員間で理念を通し、共有している。	理念は開設時に事業所が目指す方向性を示した内容で策定され、玄関に掲示している。法人理念と共に、利用者を支援する上での職員の拠り所として捉え、日々実践に努めている。エルダー職員を配置し、新入職員に理念の重要性を説いている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所への買い物、喫茶店。小学校の運動会見学等、交流の機会を持っている。	町内会に加入し、清掃活動や花植え、区民祭りなどに利用者と一緒に参加している。向かいの喫茶店には頻繁に出かけ馴染みの関係となり、スーパーや小学校の運動会にも出かけるなど、近隣住民との触れ合いの機会を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やケア連絡会等で、認知症に関する内容を地域へ発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの職員様からの感想や助言の他、ご家族からの要望や意見も必ず伺い、それを職員会議等で伝達しサービスに繋げる様心掛けている。	会議は定期的に開催され、事業所の運営状況、行事、事故状況、待機状況など報告し透明性を図っているが、行政関係職員以外は法人系列事業所関係者で家族の参加も少なく、地域住民や知見者、利用者の参加が得られていない。	今年度から民生委員の参加を予定しているが、運営推進会議は地域からの理解と支援を得るための機会である事を広く伝えて、家族は元より幅広くメンバーを募る事を期待する。報告に留まらず、情報や意見の交換の場として活かし、記録に残す事を期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の入居状況報告、他事故報告やご家族からの要望についての相談などに、電話及び直接伺ってご指導いただくなど連携を図っている。	行政との連絡は主に本部で行っているが、課題内容によっては、管理者や介護支援専門員が電話や訪問で指導を仰ぎ、情報や知識の共有を図っている。今年度は管理者が区の管理者会議の役員を担うなど、協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修は継続して参加している。また、外部研修も積極的に参加し、身体拘束をしないケアを継続。また、職員間で相互にフォローする意識を持ち、身体拘束に至らぬよう連携を深めている。	身体拘束適正化による指針を作成し、委員会を設置し、法人による合同研修会内で、身体拘束や虐待について定期的に学び、共通認識に努めている。センサー使用時は、リスクについて家族と話し合い、同意を得て、ケアプランに反映し慎重に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の研修に参加する他、事業所内会議の場で勉強会を継続、特に新入社員が虐待とは何かを、しっかり見極められるよう学べる機会をつくっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会に参加したり、運営推進会議にて地域包括支援センターの方からの講話なども勉強として学べる機会をもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	最初の見学にお越しいただいた時、グループホームについて十分な説明を行い理解を得ている。契約・解約時も理解していただける説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々、ご家族からの要望や意見を伺う。法人も年に数回の満足度アンケート調査を継続、その結果を職員全体で周知し業務に役立てている。	家族の来訪時や電話での連絡時には、意見・要望など聞き出し、日々の介護にスピーディー且つスムーズに反映させる事ができる様に、連絡ノートや継続記録を活用し、職員と共有を図り実践に繋げている。写真掲載の個別の便りを毎月発行し、暮らしぶりを伝え、更に年1度、満足度アンケートを実施するなど、具体的に取り組みサービスに反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロア勤務時や年に2回の人事考課制度時は、特に、意見や提案を聞くことが出来ている。	日常的に、管理者、リーダー、職員間でのコミュニケーションはスムーズに行われ、現場での意見が反映され易い環境である。運営法人は職員を育てる取り組みとして、人事考課制度を導入し、更にエルダー制度も整い、合同研修会も毎月開催するなど、職員の向上心や質の確保に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課にて職員全員の評価を行う為に、日頃から全職員と些細な事も話をしたり面談の時間を持つ。他、休日や勤務の希望、有給の積極的な取得の推進を継続している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	無資格者・外国人実習生の採用を積極的に行っており、法人内外の研修を受講、エルダー制度にて先輩・後輩共に学んでいける体制をとり進捗状況を管理者は都度確認をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム管理者会にて企画した研修会、他ケア連絡会での研修会にも積極的に参加するように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回アセスメントや初期プラン作成へ反映させるようご家族やご本人への面談を慎重に行っている。少しでも話しやすく関わりやすく感じてもらえる様心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	心配事や不安・要望を事前に伺っておき、気軽に相談していただけるよう、今後の関係づくりにも反映するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記にて予め伺っておいた情報をもとに、先ずなにが必要なのか、初期の段階で予測できる今後をアセスメントし、それは都度フロアにて周知しておくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を意識し、本人の出来ることを見極めお手伝いしてもらったり、生活リハビリの一環として活動してもらう。散歩や外出も誘ったり誘われたりといった家庭の環境づくりを目指している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子の報告も含め出来るだけご家族とは数多く関わりをもてるよう努め、行事や会議だけでなく、積極的に面会に来ていただきこちらからも相談させてもらえる関係づくりを大切に継続している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人様の面会やお電話、行事への参加の他、馴染みのある理美容院や喫茶店に出かけたり、お住まいだったご自宅への外出も継続中。	幼なじみや地元の友人、親戚の訪問を受け、交流を深めている。手紙や携帯電話でも関係継続に努めている。利用者が希望する自宅帰省や外食、墓参り、買い物、旅行など、家族と協力して同行支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション他、生活リハビリも入居者同士で一緒に行っていくうちに、ともに支え合って過ごされるよう支援している。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の方の定期的な面会を継続、ご家族も「近くまで来たから」と寄っていただいたりする関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向の把握が困難な入居者は多いが、ご家族から得た本人の過去の情報等をもとにケアプラン等に反映させている。	家族からの情報を基にフェイスシートを作成し、思いの把握に活用している。日々の関わりで気付いた事を連絡ノートや継続記録に記載し、情報を共有し、一人ひとりの思いに添った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期に入居前アセスメントで情報を得てはいるが、入居後も都度ご本人やご家族等に伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃のケアを中心に定期的にモニタリングを実施、会議にて職員全員で情報共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニット毎の会議と事業所全体の会議を毎月開催しているが、都度担当者の声掛けにてカンファレンスを行なえる様にしている。	利用者の生活のリズムや意向の把握に努め、職員間の気付きや訪問看護師の意見、本人、家族の意向をカンファレンスで検討し、支援方法の是正を図り、介護計画を作成している。見直しは3か月の期間を設定しているが、変化の兆しも注視して見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録の他、介護記録欄の「気づき」欄にて、職員各々が都度感じたことや報告を記載、会議や計画作成時に反映するよう活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に変化があつて当然の高齢者をケアするという意識の下、見直しなどあればすぐにカンファレンスを行い新しいケアを模索、時にご家族に相談させていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃の買い物や散歩も、地域の環境やお店、公園に出かける機会を持っている。隣接する小学校との交流も運動会等を通し、何年も継続中。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からのかかりつけ医がいる方は、そちらへの受診を継続して頂き、職員が受診同行している。かかりつけ医に現在の状況を報告し、適切な医療を受けてもらえる様支援している。	入居前のかかりつけの病院を今後も継続するか、事業所の協力病院へ移行するかは、本人、家族の希望に沿って適切な医療が受けられる様に支援している。通院は家族若しくは職員が対応している。週2回の訪問看護師により、日々の健康管理が行われている。	

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	カンファレンスを訪問看護の方に同席してもらう事もあり、とても協力を得ている。入居者に何か変化があってもすぐに連携が取れる体制が継続されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	日頃からかかりつけ医の他、協力医療機関などには定期的に挨拶に伺い、関係を継続するとともに地域の病院やクリニックへの訪問を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問診療・訪問看護・家族・職員にて入居者に接し、看取りケアも実施してきた。医師も含めたカンファレンスや、家族も含めた看取りに関する勉強会も行い全員で支援を行う体制を作っている。	入居時に利用者の重度化、看取り介護に係わる指針を説明し同意を得ている。重度化に移行した場合は、医師、訪問看護師、家族、職員で話し合いを持ち、方針を共有して合意形成を図る事を打ち出している。事業所は既に看取りを経験しており、チームで支援出来る様に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内外の研修会で、救命救急やAED、応急処置の勉強、他医療先への緊急連絡の練習など行っている。緊急時マニュアルも事務所内等、閲覧を容易にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同一敷地内の小規模施設との連携を密にし、防災訓練時などは互いに協力を依頼しとりおこなっている。火災訓練の他、災害避難訓練や研修にも参加した。	年2回、隣接の小規模多機能事業所職員の参加協力を得て、夜間想定避難訓練を実施しており、内1回は消防署立ち合いの下に行われている。訓練は火災が主で、地震、風水害等の自然災害を想定した防災訓練には至っておらず、地域との協力関係も築かれていない。非常用備蓄品は確保している。	特に事業所は川と隣接しているので、最新のハザードマップで改めて、どの程度の災害該当地区に当たるのかを確認し、水害を始め、様々な災害による防災訓練の実施を期待すると共に、災害時に地域の協力が得られるような関係を築くことも期待する。次回の訓練に活かされる様な訓練記録の作成が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人名がわかるような掲示物や職員間の申し送りなども個人情報意識して行っている。	合同研修やエルダー制度を活用して、人格尊重とプライバシー保護についての教育を図っている。排泄時は利用者の視界に入らない場所で見守り、膝にはタオルを掛ける等、羞恥心に配慮している。個人記録や職員間での会話では、部屋番号に置き換え統一して管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「尊厳重視」を大切に、先ずご本人に自己決定をしてもらえる様なケア及び関わり方を意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者各々の生活リズムや習慣を尊重している。毎日同じ習慣の方も、日々過ごし方が違う方も、それぞれの生活習慣を尊重する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服や整容、女性であればお化粧も行ってもらい、理美容時もその人らしさを大切にしている。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けを始め、各々の好みや興味を引き出し食べながら楽しめる環境、行事食の時は買物にも行ってもらい献立を決める時から始めてもらい、昔の話も楽しめる環境をつくっている。	豊富なメニューとバランス良い料理が、日々専門業者から届いている。お汁粉やケーキを手作りしたり、寿司の日のケータリングやバーベキュー、そうめん流し、外食も企画し、畑の収穫野菜で1品加わる日も有るなど、豊かな食事になる様に工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理(排泄・皮膚状態・活性化)の源と考え支援、ただ厳しく管理するのではなく、好みや量、時に形状等入居者個々に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラッシング・スポンジ・口腔シートと個々の状態に合わせた方法と、出来る所は行ってもらい自立支援を考慮し毎食後の口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方に必要な時間帯のみ使用できるよう心掛けている。排泄行為自体もトイレへ向かう時から下衣の上げ下げ、後始末から戻る時まで必要な所を手伝い、過介助にならないよう心掛けている。	3割の方が自力排泄者であるが、必要に応じて排泄チェック表で排泄周期を捉え、終始手を添え、声をかけるのではなく、本人の出来る事を見極め、排泄の自立を支えている。夜間のポータブルトイレ使用、ベット上でのオムツ交換、衛生用品の使用等は利用者の状態に合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず、軽い運動、食事の摂り方や水分量、排泄時の姿勢等、研修で職員全体が学んできたことを活用し取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限りの配慮をし提供する。時間帯は決まってしまうが、時には早朝に希望があった時など柔軟に対応できるよう努めている。また、給湯器の不具合時は、隣の事業所にて入浴が可能である。	入浴は週2回を目安に支援しているが、毎日湯を張り、希望に応じている。一人ずつ湯を取り換え、一番風呂を満喫頂き、歌や職員との会話で寛ぎの時間となっている。殆どの利用者は湯船に浸かっており、拒む場合も毎日声掛けを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の巡回の時間や日中の休息の時間も、ケアプランに反映させ個々に合わせゆっくり休んでもらえる様配慮、時に作業療法を取り入れての安眠対応等の工夫を試みている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表にて入居者各々の薬の内容を把握、症状等に変化時は訪問看護や主治医に報告。誤薬事故防止は、服薬前に何重もの確認作業、時に利用者様とのやり取りでも確認への意識を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で出来る範囲でのお手伝い、軽いお仕事(役割)をもってもらい生活の習慣にしていだく。それはプランに反映させる。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の商店や喫茶店、公園や小学校に散歩など支援、時にご家族と計画し外出に同伴して頂いたり地域の催しにも参加を継続、施設内の外出行事も委員を決めて毎月立案している。	厚別川周辺の散歩や畑作業、買い物、喫茶店でのティータイム、町内会行事のお祭り、清掃活動、花植えなど、地域の中での交流を楽しんでいる。事業所は年間計画を立て、花見、鯉のぼり見学、紅葉狩り、雪まつり、イルミネーション見学、新聞工場見学、外食など、気分転換や季節を感じる外出を企画し支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃は事業所でお預かりしているが、外出や行事に出かける際は各々に預けて使ってもらう、会計の際には職員が付き添い支払いも楽しみの一環として尊重する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や葉書で近況をご自分でお知らせできる支援を始め、現在も継続されている。電話の希望があればフロアにてご友人やご家族にしてもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけや行事を行い気持ちよく過ごして頂ける様心掛ける。清潔で気持ち良く、一緒に暮らしているという雰囲気を持てるよう配慮、食堂の座席位置も業務の都合で決めるのではなく楽しく食事や生活が出来るよう工夫。掃除や換気も入居者にも行ってもらっている。	窓からの日差しも明るい食堂とリビングを中心に、1階にはウッドデッキも設置され、天気の良い日は日向ぼっこも楽しめる。リビングには利用者のスナップ写真や生花が飾られ、家庭的な雰囲気や季節感への配慮が窺える。ファミリールームを設けて、利用者のレクリエーション活動や家族との懇談に活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方々同士や、職員も交えレクや運動を行い、テレビ・音楽鑑賞、将棋等、リラックスできる空間づくりに努めている。時にお一人での空間も持てるよう通路にも小さなソファを設置し配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーに配慮し、その人らしい過ごし方が出来る様、馴染みの家具や必要なものを揃えてもらい自分の空間として過ごして頂いている。	居室には、クローゼットと洗面台が設置されている。馴染みの筆筒やベット、テレビ、冷蔵庫などの生活必需品から、大切な仏壇、家族写真、趣味のレコードや基盤、演歌歌手のポスターなどに囲まれて自分らしい居室を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの案内表示、居室内はつかまったり歩くのに便利な家具の配置、車いすでも移動に差し支えない環境整備を実施している。		